

令和元年ホヤ類調査結果速報 No. 4

令和元年 10月 16日

発行：北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

9月3日～9月30日に噴火湾周辺の各地区において実施された、耳吊ホタテガイ付着物の調査結果をとりまとめました。

結果概要

- 調査が行われた 8 地区のうち 7 地区でヨーロッパザラボヤの付着が確認されました (図 1)。
- 付着個体数、付着重量ともに八雲地区で多くなっています (図 1、2)。
- 近 5 ヶ年 (H26-30) の平均値と比較すると、八雲～鹿部地区では同程度、虻田～長万部地区では少なくなっており、全湾の平均としては付着量がやや少ない年となっています (図 3)。
- 体サイズは 10～35mm の個体が中心となっています。体サイズ組成に地区間の大きな差は認められません (図 4)。
- 過去のデータでは、この時期のホタテガイ 1 枚あたりの付着個体数が 10 個体程度でもその後のホタテガイの成長への悪影響が確認された年もあります。状況に応じて付着物除去 (貝洗い) を進めて下さい。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※今回の調査結果のとりまとめ及び情報発行は北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究の一環として実施しています。

耳吊りホタテガイ付着物調査

ホタテガイを1連から上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、主に肉眼による観察により、付着物の識別、採取を行いました。ヨーロッパザラボヤおよびその他付着物の重量測定、ヨーロッパザラボヤ個体数の計数および体サイズ測定を行いました。なお、八雲地区のみ9月18日、9月30日の2回調査を行った結果の平均値となっています。

1) 付着個体数と付着重量

ヨーロッパザラボヤの付着個体数、付着重量ともに八雲地区で高い値となっています(図1、図2)。八雲～鹿部のヨーロッパザラボヤの付着個体数は過去(H26-30)の平均値と同程度、虻田～長万部地区の付着個体数は少なくなっています(図3)。ただし、各地区1、2連の調査結果のため、この調査で付着量が少ない地区の中でも垂下場所によっては付着量が多い場合もありますのでご注意ください。

図1 各地区のヨーロッパザラボヤの付着個体数(令和元年9月3日～9月30日)

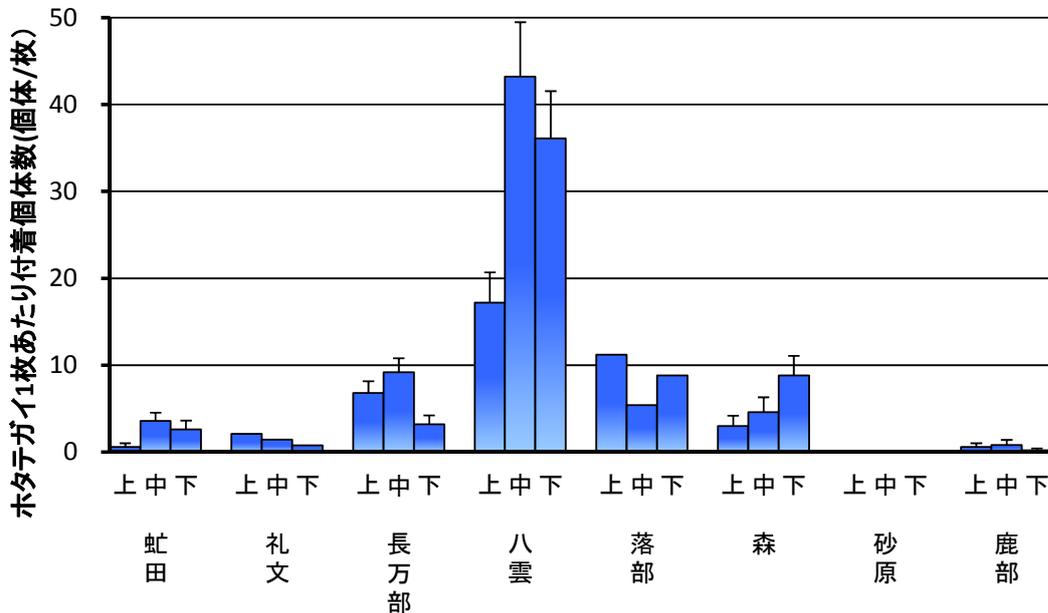


図2 各地区の付着生物重量(令和元年9月3日～9月30日)

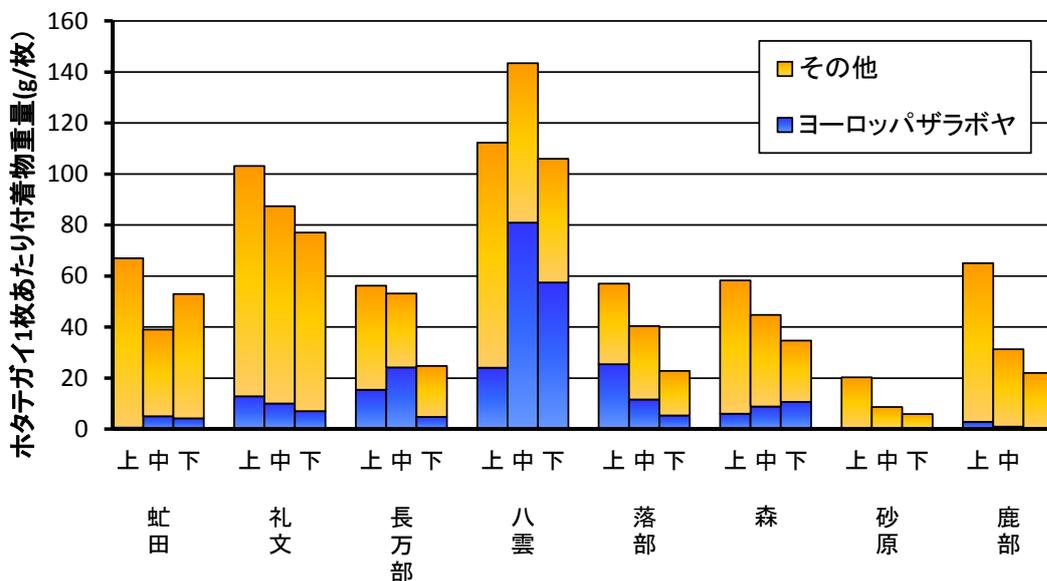
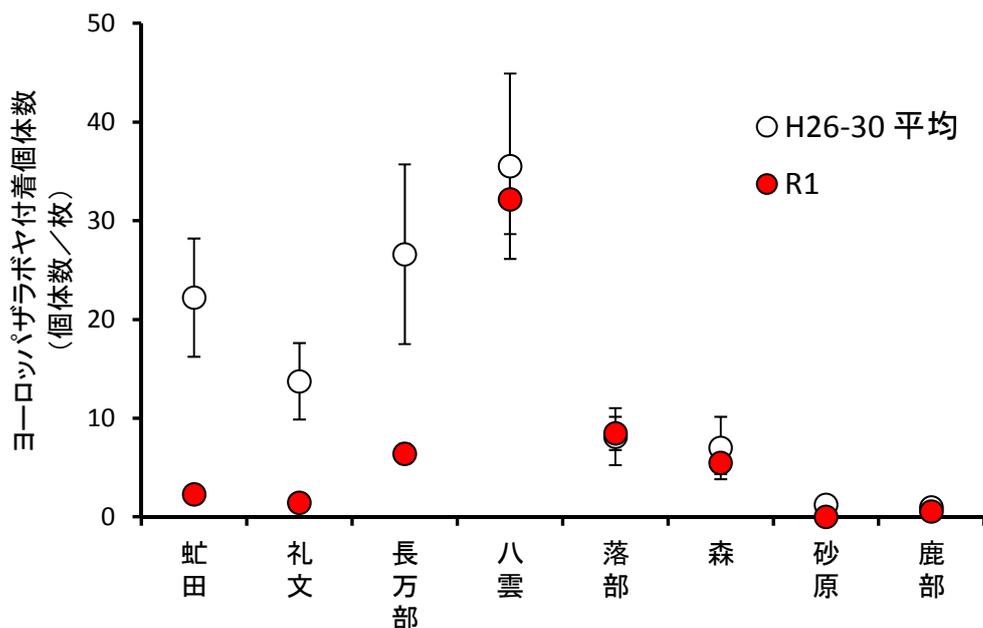


図3 ヨーロッパザラボヤ付着個体数（3層平均）の過去のデータとの比較



縦棒は標準誤差。各年の調査期間は以下のとおり。H26:9/16-10/2、H27:9/14-10/6、H28:9/20-10/25、H29:9/15-10/19、H30:9/13~10/23。また、H27 落部、砂原地区は欠測。

ヨーロッパザラボヤは、内湾や入り江などの静穏域に大規模な個体群を形成します。噴火湾でも養殖ホタテガイへの付着は静穏な湾奥部で多くなる特徴があります。また、夏～秋に付着したヨーロッパザラボヤの一部個体はその年の秋から繁殖を開始し、越冬した後、次の夏～秋にほとんどの個体が本格的な繁殖を行います。そのため、耳吊りの状態で翌年の夏以降まで養殖する場合、耳吊りした年の秋に付着物除去（貝洗い）をしっかりと行う事が翌年のヨーロッパザラボヤの発生抑制のためにも重要だと考えられます。

2) サイズ組成

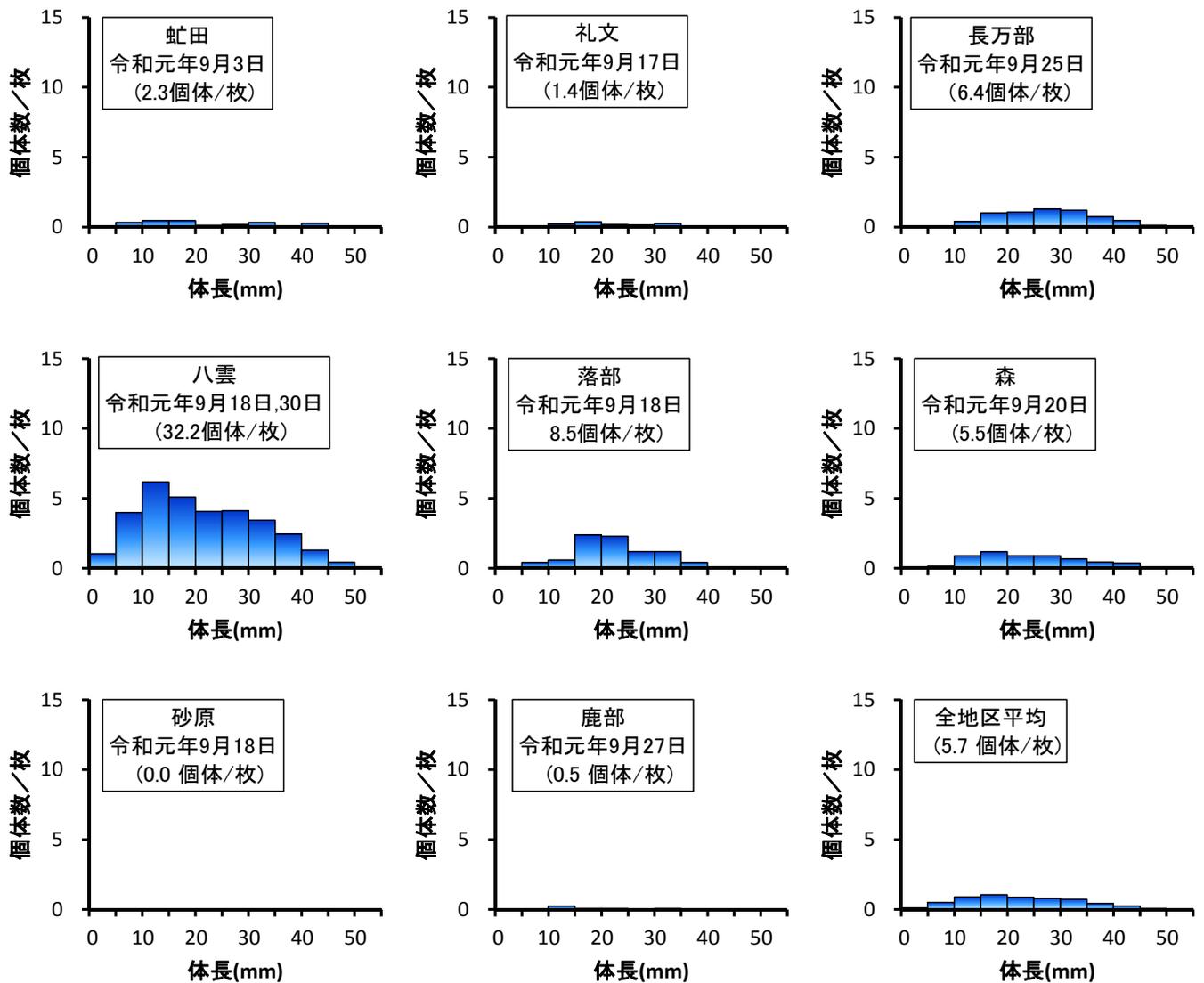
養殖ホタテガイに付着しているヨーロッパザラボヤのサイズ組成は、全地区平均で見ると10～35mmが約75%を占めています(図4)。地区間のサイズ組成の明瞭な差は認められません。

参考文献

噴火湾以外の海域の北海道におけるヨーロッパザラボヤの分布状況とその特徴について、以下の文献を参考として下さい。

- ・金森誠・馬場勝寿・近田靖子・五嶋聖治（2014）：北海道における外来種ヨーロッパザラボヤ *Ascidella aspersa* (Müller, 1776) の分布状況。日本ベントス学会誌 69(1)：23-31。
(URL : https://www.jstage.jst.go.jp/article/benthos/69/1/69_23/_pdf)

図4 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成



調査実施機関

虻田地区：函館水産試験場・胆振地区水産技術普及指導所

礼文地区：栽培水産試験場・水産振興課・胆振地区水産技術普及指導所

長万部、落部、森、砂原、鹿部地区：渡島北部地区水産技術普及指導所

八雲地区：函館水産試験場（9/18）、渡島北部地区水産技術普及指導所（9/30）